

リハビリ病院の一つの理想像を体現 東京湾岸リハビリテーション病院 (千葉県習志野市)



コンサートも開かれる「アトリウム」

京葉道路や国道14号、JR総武線やJR京葉線、京成線と多様な交通手段を活用できることから、地元習志野市以外からの患者も多く、東京都からの患者も3割を占める。

名称通り東京湾岸近くに位置し、谷津干潟パークサンクチュアリ、谷津バラ園や谷津公園にも近いので、散歩をする患者だけでなく、見舞いがてら、これらの施設を訪れることを楽しみにしている家族もいるという。

日本では商業施設を中心に実績を重ねてきた米国の大手建築設計事務所RTKLインターナショナル

リミテッドの設計デザインで、2007年に竣工。「客船」がテーマだけあって、院内は開放感にあふれ、高級感のあるインテリアを備えている。

病床数は160で、患者の年間平均入院日数は86日。豪華クルージングの乗客のように、患者は極力自分の意思で院内生活を組み立て、在宅療養に備えてもらおうというコンセプトだ。

まず、エントランスを入ると、1階から5階までの吹き抜けが広がる。正面にオブジェがあり、その真上にあるドーム型の天窗からは温かみのある陽光が差し込む。オブジェの場所には12月になると、



竹形にくりぬかれた鉄の塀。塀とセンターの間の遊歩道は歩行訓練の場にも

歩行訓練もできる階段。絵によって階数を認識できる



絵画のある個室。採光は十分だ



広々とした浴室。浴槽は2種類ある



手入れの行き届いた屋上庭園



院内とは思えないおしゃれなカフェテリア

クリスマスツリーが置かれる。「アトリウム」と呼ばれるロビーでは、地元の高校生などによるコンサートが年4回開かれている。車いすの患者や家族、スタッフなど約150人が鑑賞に集まるという。

リハビリセンターとガラスで仕切られたロビーからは、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士らスタッフが患者一人ひとりの状態に合わせたリハビリを行っている姿を見渡せる。

この病院の特徴の一つは1階にあるリハビリ研究室。オープンラボ形式で、ほかの医療機関や大学の研究者などが利用できるようになっている。

2階から4階までの病棟には各階ごとにリハビリルーム、食堂、浴室を備えている。廊下には空の写真や花の絵、個室にはユリの絵が掛けてあり心が和む。土曜は患者と家族が食堂で一緒に食事を取ることができる。

入浴訓練をするためのシミュレーターは1階のリハビリセンターにあり、各病棟の浴室は患者に純粋に風呂を楽しんでもらうためのものだ。

5階は共用フロアで、街中にあるようなおしゃれなカフェテリアと眺めの良い屋上庭園が患者や家族の憩いの場となっている。

200点の絵と深緑の庭が結ぶ地域との交流 東京北社会保険病院 (東京都北区)



3階屋上庭園からは隣接する庭や地域の住宅地が一望できる

「人の作家の絵をこれだけ展示している病院の例はあまりないんじゃないでしょうか」

吉新通康氏はそう切り出した。東京北社会保険病院(以下、北社保)と、公益社団法人地域医療振興協会の理事長を務める。北社保は東京・北区の丘陵地にあった旧国立王子病院の跡地に建つ。社会保険庁が建設し、公益法人である地域医療振興協会が管理運営。2004年4月に開院した。

最大の特徴は院内中に掛かる約200点もの絵画。すべてが画家・安藤勇寿氏の作品だ。昭和30年代の北関東地方の姿が色鉛筆で描かれている。

「高齢の患者さんが元気だったところの情景。病院という空間には非常に合っていると思う」

安藤氏の出身地は栃木県の旧田沼町(現佐野

市)。今もその地で創作活動を続けている。

開院後間もない休日の朝、テレビ番組で安藤氏と作品を知った吉新氏。「新しい病院が地域住民の皆さんを迎える上で心理的な垣根を取り払えないか」と考えていた。さっそく安藤氏と会う。

「新しい病院をキャンパスと考えたい」

安藤氏は作品の提供を快諾した。ただし、条件が一つ。展示するのは安藤氏の作品のみ、だ。

絵の導入は幸い患者と職員双方から好意的に受け入れられた。作品の前でたたずむ患者や家族の姿が散見される。6年たっても変わらない光景だ。

北社保のある北区は東京都内でも最も高齢化が進んだ地域。開院に当たって地域住民の期待は大きかった。絵は期待に応え、地域に溶け込もうとす



病棟中庭。ベンチが置かれ、四季を感じられる



1階受付。高い窓で採光をよくし、開放感を醸し出す



1階図書コーナー。壁のデザインのモチーフは植物



6階サンルーム。患者や家族の憩いの場



安藤氏の作品には「ふるさと」とそこに生きる人々が描かれている



1階ロビー。ゆったりとした空間にも絵が生きる

る病院の姿勢を端的に示すものだった。もともと東北や北関東出身者の多い一帯でもあり、安藤氏の作風に「勇気づけられた」人は少なくない。

絵をきっかけに職員の協同体制も確認できた。「ほっとする」との声も院内で聞かれる。ほかにも「院内コンサート」や「待合健康教室」を定期的で開催。「愛され、親しまれ、信頼される病院」の目標に沿うメッセージを住民に伝えている。

「地域への密着はある程度果たせてきている。そろそろ次の展開を考えているところです」

管理者の塩津英美氏の念頭にはボランティアの登用や病児保育への取り組みがあるようだ。

北社保のもう一つの顔は「ガーデンホスピタル」。高台に立地している敷地条件を生かし、緑豊かな公園としても利用できるスペースを備える。「環境共生型」を標榜するにふさわしい環境だ。